

# 多様な子どもたちの読書を実現するために

(デジタル化が進むなかで、紙の本の意味や子どもの健康被害を  
考える)

私たち子どもの本の理論研究部会は、2020年12月からコロナ禍の読書活動の課題を考えてきた。その中で「実はコロナ以前から問題としてあったことが顕在化しただけなのではないか？今、立ち止まって自分たちの足元や社会を見直し精査してみると、今日の課題が見えてくるのではないか」（冊子『コロナ禍の子ども読書』2022年3月発行）と、認識した。

その上で、子どもの読書推進の課題について、2023年3月に文部科学省が公表した第5次『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』を検討してきた。

その中で、GIGA スクール構想、教育DX進行によって引き起こされる、深刻な電磁波による健康被害の問題や、子どもの豊かな読書活動が失われることへの危機について問題を共有してきた。

そこで、第5次『子どもの読書活動に推進に関する基本的な計画』について委員として関わってこられた野口武悟さんに現在の子どもの読書活動をめぐる現状と課題について語っていただき、多様な子どもたちの読書を実現するための環境について理解を深めていきたい。

## 基調報告 理論研究部会の話し合いの中から

講演 第5次「子どもの読書活動推進に関する基本的計画」策定のなかで

講師 野口武悟さん（専修大学文学部教授）

日時 2024年2月25日（日）午後1時30分～4時30分

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟  
307号室

小田急線、参宮橋駅下車 徒歩約7分

地下鉄千代田線 代々木公園駅下車(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分

申込み 1月7日受付開始2月20日まで 40名

申込先 メール [nkodomorironken@gmail.com](mailto:nkodomorironken@gmail.com)

参加費 1000円

(入金について詳しいことは、申し込み受付後、メールの返信でお知らせします。)

主催 日本子どもの本研究会子どもの本の理論研究部会